

令和6年度 京都府立向陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
○家庭や地域社会から信頼され、期待される安全・安心で魅力ある学校づくりを推進する。 ○一人一人の生徒の個性と能力を最大限に伸ばし、将来の夢や可能性を広げる確かな学力をつける。 ○知徳体美のバランスのとれた生徒を育成し、すべての生徒がよりよい社会の構築に貢献できる力をつける。	○ICT機器を利用した授業実践の交流はできなかったが、DX研修での利用状況アンケートでは府内平均を上回る利用状況がみられた。利用状況自体が目的にならないよう注意しながら、教職員間で利用方法の交流を行っていきたい。 ○総合的な探究の時間は、向日市や第5向陽小学校、企業と連携しながら計画的に進められた。教職員全体で指導内容や指導方針について共通理解を図りながらさらに改善を進めていきたい。 ○生徒会によるアンケートなどを実施して、実際にルールの変更を経験させることにより、生徒の社会参画意識を醸成することにつなげられた。引き続き、取組を進めていきたい。 ○3年生を対象とした「進路指導アンケート」では、進路決定について満足しているとの回答が多く、本校の進路指導について肯定的に捉えられていることがわかった。次年度は、志望理由書の作成や面接指導により、自分自身について適切に表現し進路実現につなげられる力の育成を目指していきたい。 ○教職員研修を実施することにより、学校安全について共通理解を図った。次年度も継続的に危機管理や危機対応について共通理解を図り、安心・安全な学習環境の整備を進めていきたい。 ○分掌部長を中心にした中学校訪問や生徒の姿が見える学校公開を実施し、中学校や中学生・保護者に丁寧な情報発信を行った。今後はさらに学校公開の在り方を工夫し、学校の特色や魅力についての丁寧な情報発信を行っていきたい。	○学習指導要領の趣旨に沿って評価の工夫やICTの利活用を進め、わかる授業、伸ばす授業を追究するとともに、総合的な探究の時間を効果的に実施し、課題発見能力や確かな学力を育む。 ○挨拶や身だしなみの指導などにより基本的生活習慣の育成を図るとともに、生徒が自ら校則について考える機会を作るなど、高い規範意識や自ら考えて行動する姿勢を育む。 ○教職員、生徒が3年間の進路指導スケジュールを共有し、生徒の学力の向上と希望する進路の実現を目指す。 ○地域や企業との連携、校種間の連携を進めるとともに、部活動やボランティア活動、読書活動等を推進し、自己有用感、社会参画意識を育む。 ○スクールポリシーを踏まえた学校の特色化・魅力化につながる教育活動について検討・実施し、積極的な広報を行うことにより志願者の拡大を図る。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習指導	日々の授業を大切にするとともに、ICT機器利用をさらに推進し、基礎学力の向上を図る。	ベル着をはじめ授業規律を徹底し、日々の授業を大切にする姿勢を育てる。また、生徒の状況に応じた課題や考査など、基礎学力の向上を目指し取り組む。学校教育におけるICT環境の変化を踏まえ、効果的なICT機器利用を推進するため、ICT活用推進会議を中心に、教員間で交流する。	B	A
	総合的な探究の時間を中心に探究活動を進め、生徒の自己実現につなげる。	教育推進部学年担当者を中心に、総合的な探究の時間の担当者が効果的に授業をすすめることができるようにする。これまでの取組を踏まえ、より具体的な指導計画の提示や関係諸機関との連携等を深め、他者とながる力を十分に育成できるよう担当教員間で連携を密にして取り組む。	A	
生徒指導	生徒の自主的・主体的な活動を促進し、社会で生きる力を育む。	生徒やPTAと、校則やSNSの問題について協議し、よりよい学校作りを進める。向陽祭や各種イベントなど、生徒会が自主的に取り組める環境をサポートする。部活動の活動を支援し、生徒の主体的な学びや経験の場を確保する。	B	A
	問題行動の未然防止と、自己指導能力の育成を図る。	立ち番や身だしなみ点検の効率化を図り、全教職員体制での生徒指導（見守り）体制を確立する。生徒指導便りや日々の注意喚起を通して、規範意識の醸成を図る。いじめを含む生徒指導事象に対し、組織的な対応・情報共有を進め、対象生徒の成長に期する指導を行う。	A	
進路指導	3年間の進路指導計画の具体化を図るとともに、生徒の希望進路実現に向けた質の高い学力伸長を図る。	年間の進路指導計画をもとに、学年部との連携を深め、必要となる進路情報や資料等を適切に提示できるようにしていく。向陽高校生の進路希望状況を踏まえ、志望理由書やプレゼン・面接指導を強化するとともに、模試の分析・活用や自習室利用の促進等の取組をとおして質の高い学力伸長に取り組む。	B	B
人権教育	自己と他者を尊重する態度を培う。	講演や視聴覚教材を用いて、多様性を認め合う心を醸成し、他者を尊重できるよう、自らの行動指針を考えさせる。各教科等の教育活動の中で人権意識を涵養し、望ましい人間関係を形成する。	A	A
環境教育	環境教育の充実と学習環境の整備に努める	学習環境を整える態度を養い校内の環境美化を充実させるため、日常の清掃活動とともに学校行事前後の大掃除を徹底する。また、各学期に美化委員による教室美化点検や保健委員による教室の二酸化炭素濃度の測定を行う。さらに、文化祭等の機会を用いて環境問題についての広報活動を積極的に行う。	B	B
健康・安全	生徒の健康状態の把握と支援体制の充実	健康診断や健康相談等とおして生徒の健康状態を把握し、関係機関・分掌と連携しながら健やかな学校生活を送ることができるよう支援する。また、スクールカウンセラーによる研修会で教育相談に関する理解を深め、支援体制を充実させていく。	A	A
学校図書館	図書館の読書・学習・情報センター機能を拡充するとともに、読書活動や図書館の利用をおとして「企画力・提案力」「他者とながる力」「自らやり抜く力」の育成につなげる。	本を豊富に揃えるとともに、生徒同士で学び合い教え合う場（ラーニング・コモンズ）の機能を持たせる。特に、令和5年度に導入されたGIGA回線を活用し、探究型学習や進路実現に向けてのプレゼンテーションの練習にも対応できる図書館にすることで、図書館の新たな利用者の増加を目指す。教科での図書館利用や学校行事・図書館行事をおとして、生徒が図書館に来館する機会を増やす取組を進める。図書委員会活動をおして生徒が図書館行事の企画・運営に関わることで、「企画力・提案力」「他者とながる力」「自らやり抜く力」の育成を図る。	A	A
危機管理	安心安全な教育環境の整備	地域に開かれた学校教育活動実施に伴い、引き続き来訪者への入退管理の徹底、確認、声掛け、案内等確実な窓口対応を行い、来訪者の把握を行う。また、定期的に校内巡視を行い、教職員と情報共有を図りながら、危険箇所把握及び改善を行い、安心安全な教育環境の整備を進める。	A	A
家庭・地域社会との連携	地域や中学校に対して積極的に広報活動を行い、向陽高校の魅力をしっかり発信する。	学校説明会において、授業公開の実施や、例年にはない新しいコンテンツを作成し本校の魅力をしっかり発信していくことをとおして、本校への入学志願者数増加へとつなげていく。ホームページを有効に活用し、さらにSNSの利用、地域への広報紙の発行等を積極的に行い、中学生から選ばれる学校を目指していく。	A	A

学校関係者評価委員会による評価	学校全体として授業に落ち着いて取り組めており、グループでの活動等の協働的・主体的な学びも行われている。生徒の希望進路実現に向けては、入試等において必要な学力をどのように伸長させていくかという視点も大切となる。DX事業で新たに整備されたKo-lab. ルームはこれからの世界とつながる様々な可能性が広がる部屋となった。ICT環境を生かした探究活動など様々な場面で活用が期待される。総合的な探究の時間等の取組での小中学生や地域の方との交流は高校生にとっても自らの学びを振り返るとともに、自己有用感を高めることができるよい機会である。高校入学時には自らの進路について、多くの生徒はまだ定まっていないことから、企業体験などの社会とつながる活動は、これから社会に出て自分がどう貢献できるかが発見できるよい機会となり、未来の自分を見つける力の育成につながる。生徒たちが将来どのように、よりよい未来を築いていくことができるかといった長期的な視点を持ち、向陽高校の特色としてこのような取り組みを続けてほしい。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	生徒一人一人の学力伸長・希望進路の実現に向けて、学習指導要領の趣旨に沿って教科・特別活動・総合的な探究の時間でのそれぞれの教育活動が有機的なつながりをもつようカリキュラムマネジメントを推進していく。教育目標の実現に向けて、共通理解のもと教育活動を推進していくため、評価指標やICTツールの効果的な活用等についても、教職員の研修・実践交流をさらに深めていく。本校の教育活動について、地域の小・中学校と連携して、わかりやすく丁寧な情報発信を継続して行っていく。
---------------	--